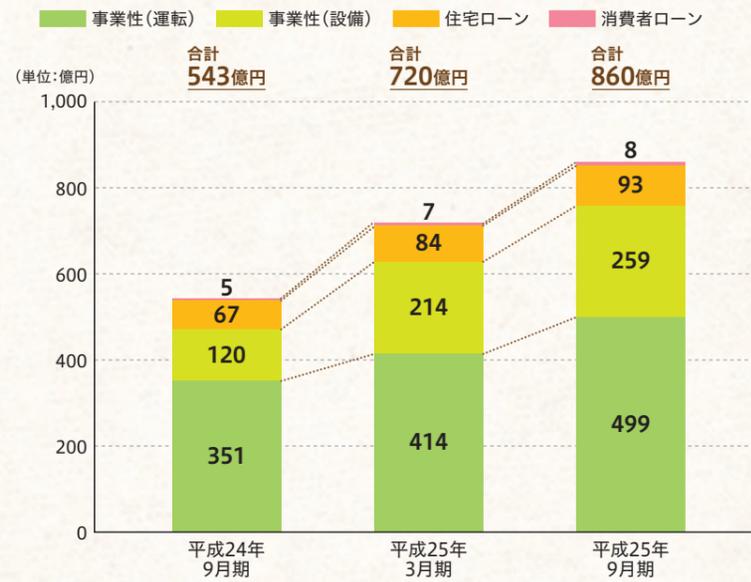


仙台銀行の本業支援

●被災者向け新規融資実行額累計



当行は、東日本大震災の発生直後から、被災されたお取引先の早期復興に向けて、様々な資金需要に積極的に取り組んでいます。平成25年9月末までの被災者向け新規融資実行額は3,403件860億円となりました。

また、中小企業診断士や不動産鑑定士、農業経営アドバイザー等が、多様な復興ニーズを踏まえ、きらやか銀行とも連携し、協調融資やDDS（既存債務の劣後ローン転換）等の資金支援、二重ローンご相談、アグリビジネス支援等に取り組んでおります。

取り組み事例①

売電債権を担保にメガソーラー設備導入を支援

宮城県では、エネルギー供給環境の変化に伴い、再生可能エネルギーへの関心が高まっております。

こうした中、株式会社RSテクノロジーズ・三本木工場（宮城県大崎市）では、再生可能エネルギー固定価格買取制度を活用したメガソーラー設備導入と太陽光発電事業への参入を検討しておりました。

当行古川支店と地元企業応援部は、同工場の屋根設置型メガソーラー導入計画の相談を受け、宮城県信用保証協会と連携し、売電債権を担保にする手法で設備資金をご融資しました。

当社では、今回の太陽光発電事業への参入により、省エネルギー化を実現するとともに、震災後の新たなエコビジネスに取り組むことが可能となりました。



【本計画の事業概要】

設置場所：宮城県大崎市三本木
（当社三本木工場の屋根）
発電出力：1,018.71Kw
※宮城県内屋根設置型メガソーラーとして最大級の発電量



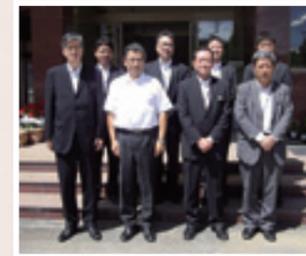
取り組み事例②

本業支援を通じて被災地金融機関として早期復興に取り組む

私が本業支援に取り組むうえで心がけていることは、常にお客さまの立場に立ち、コミュニケーションを図りながら丁寧にお客さまの声を聴くことです。

きらやか銀行と経営統合したことで、互いの情報を共有し、協調融資やビジネスマッチングなども視野に入れた、より質の高い提案をすることが可能になりました。

仙台銀行だからできること。仙台銀行だから分かる想い。私は、被災地の復旧・復興が本格化している今だからこそ、より多くの声を聴き、人（お客さま）＝企業とのつながりを大切にし、日々、本業支援に取り組んでまいります。



作業員用寄宿舎を建築
（平成25年8月に完成）



プロフィール

仙台銀行 志津川支店兼歌津支店
主任 櫻井 裕行
法人・個人渉外担当

町のおすすめスポット「田東山」
南三陸町歌津地区西部に位置する田東山。5月になると、約5万本のツツジが咲きほこり、一面が朱色に染まります。



震災被災地・南三陸町歌津地区に本社を置く株式会社阿部伊組（総合建設業者）様は、復興工事に従事する作業員の宿泊先（寄宿舎）の建設を計画。被災地では、作業員の宿舎の確保が、復旧作業を進めるうえでの重要な課題となっていたことから、仙台銀行ときらやか銀行は建設資金を協調融資で支援しました。

喜びの声



株式会社阿部伊組
阿部 隆 代表取締役
（総合建設業者）

震災復興に向けた受注工事の増加に伴い、地区外・県外の下請業者との連携の強化及び作業員の増員確保が必要と考え、当初は地元建設業者で建設組合を設立し、保証事業制度を活用した作業員用寄宿舎の建設を考察していました。しかし、建設組合としての制度活用に弊害が生じたことから弊社単独による建設を計画しました。

仙台銀行は、震災後、宮城の震災復興のために復興支援専門部署「地元企業応援部」を新設し、その担当者から様々な情報やアドバイスを受けていたこともあり、早速、仙台銀行歌津支店に資金調達の相談をしました。また、きらやか銀行と経営統合したことで、営業基盤や資金供給機能が強化され、地元金融機関に協力していただいたことを心から感謝しております。